

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

アメリカ人と共に 丸森町で地域おこし



アメッド ゼバさん

アメリカ合衆国ペンシルバニア州出身
株式会社GM7勤務
丸森町地域おこし協力隊員

——日本や日本語に興味を持ったきっかけは何でしたか。

初めは、子どもの頃に双子の姉と一緒に見たポケモン、セーラムーンなどのアニメでした。その後、英訳版「るろうに剣心」か他の本だったかもしれませんが、翻訳者によるあとがきから「日本の文化を理解していないと訳せない部分があることや、アメリカ文化に照らし合わせて選んだことばがある」とあり、自分で日本語が読めたり話せたりしたら、日本をもっと知ることができるんだと興味が増しました。進学したピッツバーグ大学の日本語クラスは、和気あいあいとした雰囲気、会話、特に敬語に重点を置いた学習内容でした。電話対応の実践的練習などもあり、学んだことは仕事でかなり役立っています。

——日本の大学に3回留学したそうですね。

1回目は2012年の大学2年生のときに神戸大学で4か月間、2回目は4年生の卒業直前に滋賀県彦根市にあるミシガン州立大学連合日本センターで4か月間学びました。初来日の神戸で驚いたのが関西弁と日常会話です。イントネーションが学んだものとは違うし、そこまで丁寧に話す人は周りにいませんでした。中学から続けてきた美術部の活動を日本でもしようと、入部手続きに行ったら外国人は私ひとり、びっくりされました。絵も交えての国際交流は面白かったですよ。それと、漢字が勉強不足だとわかって、すぐに始めました。

3回目は、フルブライト奨学金を得て2014年9月から1年間、東北大学に留学しました。母国でボランティア活動を経験してから、NPOがどのように人と人をつなぐのか学びたいと考えていたところ、東北大学に専門としている教授がいると知り、師事しました。

——東北大学で学んだことを教えてください。

東日本大震災から3年半後で、被災地で活動する団体から色々なことを学びました。日本では災害直後を除き、NPOでボランティア活動する人は学生や退職した人がほとんどで、偏りがあります。日本は寄付が少なく、助成金ありきなので、活動を継続することも専従職員を安定的に雇うことも難しいのだとわかりました。ピッツバーグのNPOでも似たような課題はありましたが、寄付をする財団が数多くあるので、財政面が安定しています。日本のNPOは活動を継続・拡大するため、もっとビジネス的な仕組みが必要だと考えました。

——帰国して3年ほどしてから丸森町で働くことが決まったそうです。



和太鼓演奏中のゼバさん

が、経緯や仕事のことなど教えてください。

ピッツバーグの市民団体で仕事をしていたところ、東北大学時代の知り合いから連絡があり、丸森町でビジネス的な仕組みで地域おこしに取り組んでいる株式会社GM7を紹介され、2019年4月に転職しました。丸森町の観光紹介や通訳から始まり、2020年9月からは丸森町地域おこし協力隊を兼務し、オンラインショップ運営や町のふるさと納税の業務に携わり、現在は英会話教室の先生、蔵の郷土館 齋理屋敷の運営やSNSでの情報発信など忙しい日々を送っています。齋理屋敷では収集品の展示のほかにも私たちが企画するイベント、例えば「猫の日記念イベント」や「Myプラモデル展」などを実施しています。出展してくれる方との調整、チラシの作成やSNSやメディアでの情報発信など仕事は盛りだくさんです。

——丸森町での生活はいかがですか。

丸森町は少子高齢化と過疎化の課題を抱えた地域ではありますが、元気いっぱい魅力あふれる人が多いです。町の人たちは温かく寛容で、会合などで個性的な意見が出て受け入れられています。外国人の私にもフレンドリーで、知り合いも知り合いでない人も気軽に私に話しかけてくれます。それから仕事の上で気付いたことですが、日本では提案したいときなど、事前に根回しが必要だとわかりました。アメリカでは、相手に直接伝えて反応を得るのが普通だったので、この違いに気付くまで、「なんで?」と不思議でした。

ほかには地域活性化事業に関わるメンバーで構成されている丸森町太鼓集団「旅太鼓」に加わり、活動しています。2022年10月に仙台で開催されたみちのくYOSAKOIまつりで高知県のよさこい踊りのチームとコラボしたときは、本当に楽しくて、充実した1日になりました。

——今後の計画など教えてください。

地域おこし協力隊の任期は今年の夏で終わりますが、大好きな丸森町に残ります。コロナ禍以降、町内の方々と接する機会が少なくなったので、これからじっくりと交流を深めて、SNSなどで紹介したいと考えています。それから時期は未定ですが、丸森町で地域おこしに関する仕事で起業したいです。働く人が家族の世話をしながらでも、無理なく研修に参加でき、スキルアップが可能な職場を目指します。

「みやぎ外国人相談センター」から

みやぎ外国人相談センターに寄せられた相談事例をご紹介します。

Q
A

勤め先の契約が更新されないことになりました。

失業した場合、ハローワークでお金がもらえると聞いたのですが、どうしたらいいですか。

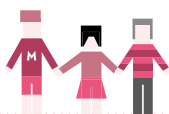
失業した場合に受け取れる雇用保険の基本手当を受給するには、条件があります。まずは自分が条件に当てはまるのか、受給の手続きに何が必要なのか、最寄りのハローワーク、もしくは下記の HP で確認してください。

《厚生労働省》「会社（かいしゃ）をこれからやめるひと／あたらしい仕事（しごと）をさがしているひと」

離職した場合の手続きや、ハローワークでの仕事の探し方、最寄りのハローワークの情報などがやさしい日本語を含む15言語*で公開されています。

※やさしい日本語、英語、中国語（簡）、中国語（繁）、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、タイ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、カンボジア語、モンゴル語、ミャンマー語

URL https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/jigyounushi/page11_00020.html



シリーズ 外国につながる子どもたちの支援について考える



第6回 外国人の子ども・サポートの会代表、MIA外国人児童生徒アドバイザー 田所 希衣子さん

今回は、高校生の学習サポートについてお話しします。高校生になると、生徒は自立して行動するようになります。しかしその一方でサポートが必要な生徒もいます。

自立していく生徒の場合は、生徒の求めに応じて学習サポートを充実させます。大学進学に関しては、支援者といっしょに生徒が自分で学びたいことをはっきりさせた上で家庭の経済状況などの条件を考えながら、受験したい複数の大学の学科の受験科目を調べます。そこまで調べると、あとは生徒が進路指導の先生と家族と相談しながら進めていくことができます。

サポートが必要な生徒の場合は、家族も書類を読めないことが多いようです。自立して行動するためには情報を正確に理解する力が必要です。「大切なことは何か。自分はどう行動するのか。わからないことがないか。」こういうことを自力でキャッチできないと、履修科目の選択や進路にかかわる手続きの重要な情報を聞き逃すことがあります。中学のときは先生が声をかけてくれますが、高校ではわからないことを自分から確認すること、自分が何で困っているかを先生に伝えて助けを求めることが大事です。

非漢字圏から来日した生徒には中学校3年間で漢字を身につけることは難しいことです。外国から来た生徒が増えている今、日本語が十分にできないけれど母語で力をつけている生徒たちが高校に入学しています。外国からの生徒を迎える高校では、先生方が生徒の状況を共有し、情報を伝える方法や学習環境を検討することで解決することもあるのではないかと思います。

外国につながる生徒の進学・就職では、日本語や英語の能力の検定試験の結果を求められることがあります。それを得るためにはある程度の時間を要するので、時間をかけて準備をしていきます。入学時には日本語が十分でない生徒も、日本語の上達にともない学力も上がります。そして、母語、日本語、英語ができることで進学・就職の選択肢が広がります。

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

『日本語教師のための初めてのコーチング』

著者：吉田有美 発行：(株)アスク

「コーチング」とは、問いかけや傾聴を通して、対象者に自分で答えを探させるというアプローチを取り、自身も持っている資質や素養を引き出して目標を達成する手法です。

本書は、日本語教師が日本語学習者を支援する場面に特化して、コミュニケーションの方法を実例と共に紹介しています。3部構成で、1. コーチングの基礎知識 2. 日本語教師のためのコーチングレッスン 3. 日本語教師がコーチングを活かすためのQ&Aがあります。第2部の「学習の目的を設定する」では、「目標の設定の仕方」や「目標がない学習者には『ゆるやかコーチング』」など質問例やポイントのほか、コラムもあります。また、「会話が續かない学習者にどうすれば?」などの質問に対し、著者が学習者に話してもらえるような質問例をいくつか紹介しています。

日本語を学ぶ学習者の伴走者として日々奮闘している方に、是非読んでいただきたい一冊です。





MIA日本語講座 2023年4月から始まります！

MIA日本語講座を開講します。身近に日本語を勉強したい外国人がいらしたら、ぜひご紹介ください。

多言語(日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ウクライナ語)のチラシも用意しています。

クラス	曜日	時間	期間	テキスト	受講料	定員
初級1 初級2	火～金	10:00～12:00	4月11日(火)～7月21日(金)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥22,000 ※テキスト代別	初級1・2 各15人
中級	火・木	13:00～15:00	4月11日(火)～7月20日(木)	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55』	¥11,200 ※テキスト代別	15人
夜間初級1 夜間初級2	火	18:30～20:30	4月11日(火)～9月 5日(火)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥12,000 ※テキスト代別	初級1・2 各15人

●場所：宮城県国際化協会（MIA） ●事前の申し込みが必要です。

「いわぬま日本語ひろば」を開催しました

1月と2月に「いわぬま日本語ひろば」を2回にわたって開催しました。これは、JOCA東北とMIAとの協働で、宮城県・岩沼市からの委託業務の一環として行ったものです。

参加したのは、市内企業に勤めるフィリピン人技能実習生と10月から11月に開催した「日本語交流サポーター育成講座」に参加した日本人サポーター、合わせて20名ほどです。

1回目は自己紹介のアクティビティを行った後、「自分の好きなこと・趣味」について日本語であれこれ話をしました。初対面同士だったので、最初は少し緊張した様子でしたが、日本人サポーターが「やさしい日本語」で話しかけるうちに次第に打ち解けた雰囲気になり、「料理が好きで、いちばん得意なのはフィリピン料理の『アドボ』です」「ダンスが好きなので、寮でみんなと踊ります！」などと話が弾み、時にはスマホで動画や写真を見ながらの楽しい会話の時間が続きました。

終わってからの振り返りの時間では、技能実習生から「仕事でも寮でも日本語はあまり話しません。でも、今日はたくさん日本語で話すことができました。」といった感想が聞かれました。

この「いわぬま日本語ひろば」は、日本人と外国人が対話を重ねることによって相互理解を深めながら、外国人側の日本語習得の支援をすること、また、日本人側の「やさしい日本語」のスキルの向上を図ることを目的として、試験的に開催されたものです。技能実習生からは「これからも参加したい」という声が聞こえてきていますので、継続的な開催に向けて、JOCA東北さんと検討していくこととなっています。



はじめに輪になって自己紹介をしました

パワニさんの町内会活動記

このコーナーでは、ネパール出身のパワニさんが日本の町内会活動の経験や感想について語ります。

第2回

「敬老会とお饅頭」

ドゥワディ パワニさん

ネパール出身。2007年、夫、子ども2人とともに来日。仙台市在住。現在、みやぎ外国人相談センター相談員、MIA外国人支援通訳サポーターなどを務め、通訳、翻訳活動を行っている。



12年ぶりの帰国
久しぶりにサリーを着ました

幹事の仕事は「茶話会」の運営(倶楽部MIA126号、第1回)のほかに敬老会のお饅頭配りがあります。以前はもっといろいろな仕事がありましたが、コロナ禍でほかの行事はみんな中止になりました。

ネパールでも最近は町内会の最年長者にプレゼントを渡すといったことがあるようです。わたしがネパールで暮らしていたころにはなかったと思います。ネパールは大家族主義でお年寄りがひとりで暮らしているということはずりありません。必ずしも長男と暮らすということではなく、そのお年寄りが自分との相性などから同居する子どもを「指名」します。指名が拒否されることもありません。

わたしは、4軒のお宅にお饅頭配りをしました。4軒とも全く面識はありません。ほんとうはもっとたくさん配る先があったのですが、外国人が行くとびっくりされることもあるだろうからとほかの方が手伝ってくれました。3軒のお宅ではすんなりとお饅頭を受け取ってくれました。残る1軒は、ひとり暮らしの方でした。ドアを開けたら、日本人ではないような顔が見えたからなのか、ドアを閉められそうになりました。わたしも必死に説明しました。「わたしも同じ地区に住んでいます。怪しい者ではありません。町内会の会長から頼まれて配っていますので、どうぞ受け取ってください。」

そのお年寄りはずっと戸惑った表情で、「あなたにあげるから持ってかえって！」などと言っていました。最後にはお饅頭を受け取ってくれました。役目をどうにか果たせて、私もほっとしました。

ネパールは豆料理が豊富です。でも、甘く味付けすることはありません。ですからここだけの話、我が家もお饅頭はよそからいただいたときに食べるくらいです。

《令和4年度 国際理解教育支援事業 派遣講師研修会》が開催されました



MIAでは多文化共生を目的とした国際理解教育の推進を図るため、外国人講師を小中学校や高等学校などへ派遣しています。様々な国の講師との交流を通して、世界の多様性や相互理解、相互扶助の大切さを理解する機会を宮城県の子どもたちに提供しています。

よりよいプログラムとするため、3月7日に外国人講師を対象とした研修会を実施しました。研修会では学校からのアンケート結果を共有し、スロベニア出身講師ユリヤさんが実際に小学校で行った内容の実演、そして全体での意見交換を行いました。経験豊富な講師の意見を参考にしたり、新人講師から新しい視点を見出したりと講師同士、刺激の場にもなったようです。さらに学校訪問での悩みを他の講師と共有することで、今後どうしていったらいいのかが気付きを得た講師もいたようです。今年度から訪問型プログラムが再開したこともあり、より楽しく子どもたちと交流するためにはどうしたらいいのかが、熱を帯びたディスカッションとなりました。

MIAでは新年度も引き続きこの事業に取り組んでいきます。詳細についてはHPにてご覧いただけます。

<https://mia-miyagi.jp/kokurikyo.html>



研修会に参加した講師のみなさん

みやぎの国際活動団体

栗原市国際交流協会 会長 浅沼政幸さん

2月に3年振りとなる第14回栗原市国際交流フェスティバルを栗原市若柳総合文化センターにて開催し、80名ほどの参加がありました。最初の講演で、在仙台大韓民国総領事館の林熙順(イム ヒスン)総領事が、仙台白菜を使ったキムチ作りの事例などから民間交流が日韓の結びつきを一層強くするとお話しされました。続いて在宮城インドネシア人留学生協会の10名がアングロン(インドネシアの竹製の打楽器)の演奏とインドネシア伝統舞踏を披露しました。演奏後、来場者がアングロンに直接触れて体験してみるといった交流の場面もありました。

当協会では、コロナ感染症の影響で中止になっていた活動や支援を再開させ、居住外国人の活動支援や外国語講座などを通して、誰もが気軽に海外の文化と触れ合える身近な国際交流を益々盛り上げていく予定です。

🔍 Facebook: 栗原市国際交流協会



国際交流フェスティバルでインドネシア楽器を演奏する留学生

サポーターの声

真壁 英恵さん MIA外国人児童生徒サポーター



ことばカードに取り組む児童とサポーター

昨年8月から名取市内の小学校に通うネパール出身の低学年児童Aさんの日本語学習の支援を始めました。それまで「国際交流協会ともだち in 名取」の日本語講座で大人の学習者のサポートをしていましたが、子どものサポートは今回が初めてです。私自身も小学生の親であること、海外在住時の経験や感謝の思いがあることから、お役に立ちたい気持ちで手を挙げました。

当初、Aさんの日本語は挨拶程度でしたが、今は教室から外を見て「わー、いっぱい雪ふってるね」と自然に口からでるほど目覚ましく成長しています。私はやさしい日本語と大きめのジェスチャーで話しかけますが、大体理解できており、会話のキャッチボールができるようになりました。

Aさんの意欲や集中力に合わせて臨機応変に対応できるよう、学習方法を毎回いくつか用意しています。今週は「反対語ことばカード」を使って学習したのですが、覚えた語彙と一緒に文章を作り、ノートの代わりに折り目を付けたコピー用紙へ書きました。「重い」に続くことばで「机」と私が言うと、「ちがう!『重いランドセル』、いいでしょ」と、笑顔で示してくれました。こんな日は「(時間が経つのが)早かったね」と満足した表情を見せてくれ、日本語を学ぶ楽しさを感じている様子に私も達成感を得ています。

こうして覚えた日本語がAさんの未来を切り開く鍵のひとつになることを願って、今後も寄り添っていければと思っています。

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



●賛助会員の資格

本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など

●賛助会員の区分と年会費

個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円

●賛助会員の特典

◎協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の
定期送付(年6回)

◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免

◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
宮交観光サービス(株)

◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供

●入会方法

◎本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部MIA vol.126

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通南宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL <https://mia-miyagi.jp>

